

3. 人の行為と情報

情報論 2回目

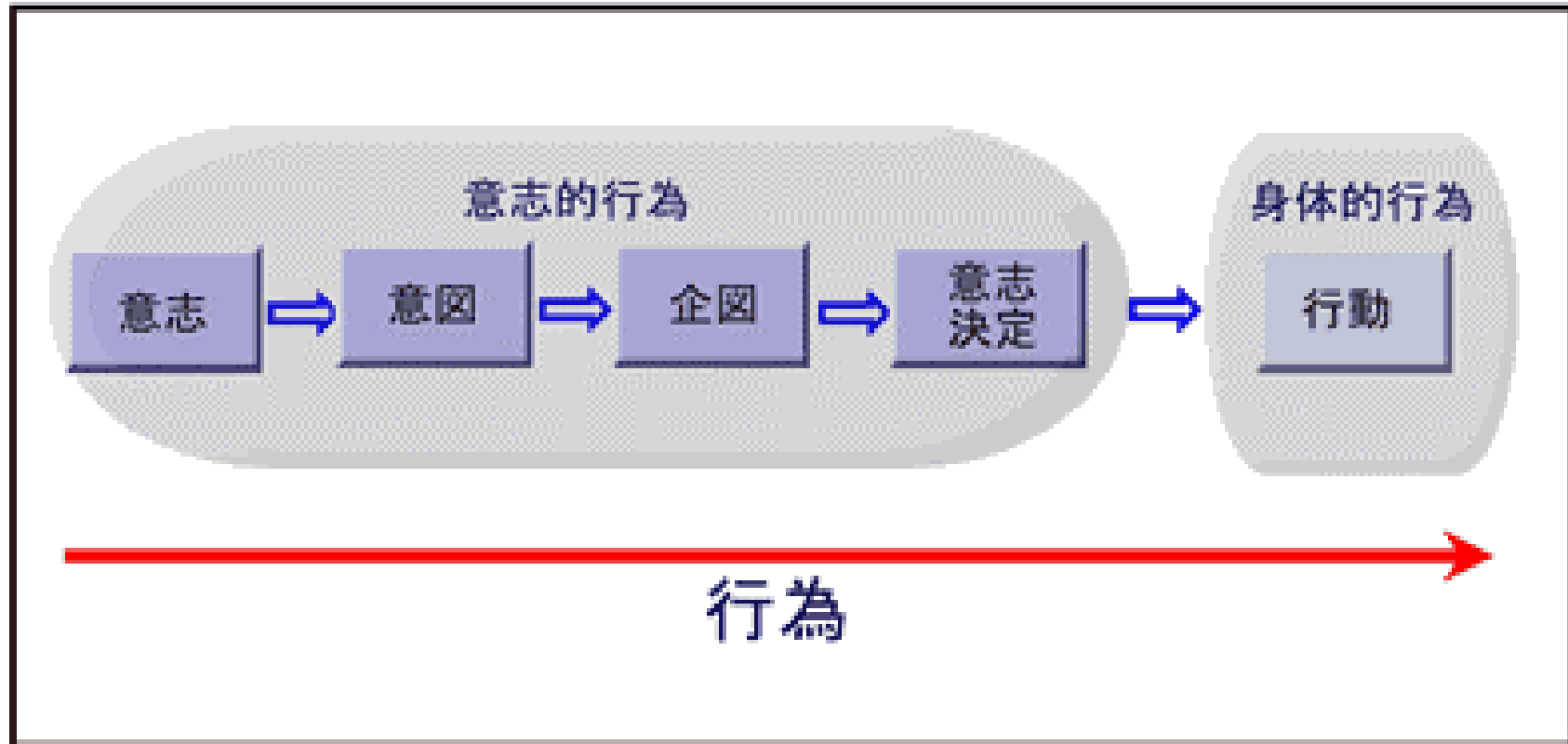
行為

- 自己実現のために行われる
 - 未だ己のものとなっていない、己の目的を実現すること
- 人の行為は、意志、意図、企図、行動からなる
- 自己の意志を創るのに重要なのは知識

人の行為と情報

- 人の行為
 - 意志
 - 意図
 - 企図
 - 意志決定
 - 行動
- 情報
 - 資料(データ)
 - 情報
 - 知識。
- 情報の理解を深める

人の行為の段階



- 自己実現のための過程。
 - 未だ己のものとなっていない目的の実現

意志

- 行為の最初に位置する
- 行為主体における行為の発動根拠
 - 成し遂げようとする心そのもの
- 自己実現の基本となるもの
 - 自己以外の何者によっても妨害されない
 - 自分自身がしたいあるいは欲しいと思う内容そのもの

意図

- 意志に基づいてしようとしている目的や考えている事柄
- 意志を実現するため目的と目標を設定を行う段階
 - 漠然とした目的の設定だけでは意志の達成は困難
 - 目的の到達程度を示す目標の設定も重要
- できる限り企図の段階で目的と目標を明確にすることが重要

- 意図の整理が不十分なまま行為を押し進めると行為の途中で設定したはずの目的に疑問を持つことになる
- 目的を持たないあるいは目標がうまく設定できないのは自分の意志が良く整理されていないことによる

企図

- 意図を実現するための企てや計画や企画
- 意図に基づいた目的と目標を達成するためにいくつかの実現可能な計画や企画を組み立てる段階

意思決定

- 意思と意志
- 意志に基づいて最終的に実行する手段を決定し、決定した手段を実行に移すか否かを決断する段階
 - 行動に移す方法を決めるのが意思決定
- 行動に移さない意思決定もある

行動

- 行為の最終段階
- 行動により行為が完了する
- 意志的行為
 - 意志、意図、企図、意志決定までの行為
- 身体的行為
 - 行動
 - 行為の中で他人から始めてそして唯一認識される
 - 意志的行為と区別される
- 刺激に対し無意識に反応する動物的行動
 - 意志的行為を伴わないため行為ではない

行動と責任

- 行動により他人に行為が認識され他人に認識される
- 他人との関係が生じることから行動の結果について責任が問われる
 - 法的責任
 - 道徳的責任
- (参考文献)
 - 岡部 勉：行為と価値の哲学、九州大学出版会、1995
 - 有福 孝岳：行為の哲学、状況出版、1997

データと情報と知識と、人の行為

- 意志と知識
- 意図とデータ
- 企図と情報
- 意思決定と情報

意志と知識

- 意志の形成
 - 知識最も大きな影響を与える
- 個別のデータや情報
 - 意志を持つきっかけ
- 知識
 - きっかけを意志に結びつける
 - データや情報を意志に結び付けるには個人の知識構造が関与する

意志形成と外部からの影響

- 意志は自己以外の何者によっても妨害され得ない
- 反面、外部からの影響を受けやすい
 - 他人の意見や行動
 - マスコミの情報など
- 外部からの影響を受けやす状況
 - 自分の意志がない
 - 知識が乏しい

意図と知識と情報

- 目的あるいは目標の設定段階
 - 知識と知識をおぎなう情報が主に使われる
 - 特に新しい情報なしで目標の設定は困難
- 目的や目標の変化
 - 同じ意志に基づいても、知識構造が異なれば目的や目標が変わる
 - 同じ意志に基づいても、使用する最新の情報が異なれば目的や目標が変わる

企図と情報

- 情報を収集し、得られた情報から実行可能ないくつかの手段を選定する
 - 情報をできる限り多く収集する
 - 実行可能な手段の選択肢が増える
 - 的確な意志決定が可能になる
 - その結果、目的や目標に到達できる可能性も高くなる
- 情報収集が最も重要な段階
 - 既に持っている知識で処理可能な、新しいデータと情報を収集する

意志決定

- 情報収集で得られた複数の選択肢の中から、実行する手段を決定する
- 企図と同様に、知識と収集した新しいデータと情報を再度組み合わせて意志決定を行う
- 手段の妥当性を多面的に判断することになるため広範囲のデータ、情報、知識が使用される

意志決定と意図

- 評価基準
 - 既に設定した目的と目標が意志決定のための評価基準となる
 - 明確な目的と目標の設定が意思決定や行為に非常に重要であることを確認できる段階
- 行動を伴わない意思決定
 - 行動しないほうが目的・目標に近づく
 - 行動すると目的・目標に遠くなる
 - 失敗の確立が高い
 - 目的・目標が知ることである
 - が

意思決定と情報

- 知識の差
 - 意志と目的、目標まで同じでも、本人の知識が異なれば意思決定が異なる
- 収集した情報とデータの差
 - 意志と目的、目標そして、知識が同じでも、データと情報が異なれば意思決定が異なる
- 責任と情報
 - 収集した情報やデータにより責任が伴う行動が変化する
- 自己の知識と、情報収集の果す役割は非常に大きい

行動と情報

- 行動の修正
 - 意思決定で想定した通りに行動を実行できることは殆どない
 - 現実に対応した修正を加えながら行動する
 - 新たな情報収集の必要性
 - 現実に対応するため既に収集したデータ、情報を活用するが、新たな情報収集が必要になる場合が多い
- 意志の強さ
 - 行動を継続することに決定的な影響力を持つ

行動と責任

- 行動の責任は自分でとらざるを得ないこと
- 他人の意見は参考にしても他人の意見に安易に従う行為は避けるべき
- 行動の前の意志決定は必ず自分で行うこと

行動と情報発信

- 行動は結果として情報発信を伴う
 - 行動はそれを受け止める相手にとっては情報を受信すること
- 行動の結果生じる情報には行為者の意志が含まれる
 - 行動は意志に基づく行為の結果である

まとめ

- 情報は人が行為を行うための根幹をなす
- 人の行為は、意志、意図、企図、意思決定、行動からなる
- 意志は自己実現の基本となるもので行為の発動根拠となる
- 意図の段階で設定する目的と目標が後の情報活動に重要となる
- 企図の段階では情報収集が重要となる
- 意思決定では広範囲のデータ、情報、知識が使用される
- 行動には責任がともなうので、行動の前の意志決定は必ず自分で行うことが重要である
- 行動は情報発信を伴う